

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	こぼんはうすさくら新潟中央教室（児童発達支援）		
○保護者評価実施期間	2024年 10月 17日		～ 2024年 10月 23日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	25人	(回答者数) 25人
○従業者評価実施期間	2024年 10月 7日		～ 2024年 10月 17日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5名	(回答者数) 5名
○事業者向け自己評価表作成日	2024年 11月 27日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	小集団療育プログラム	・季節や園行事に合わせ、楽しく参加できるような内容を立案している。また、日々の小集団活動のねらいとそれぞれのお子様の支援内容を照らし合わせスモールステップできる課題を取り入れている。	・身体を十分動かす活動とじっくり取り組める課題等バランスよく取り入れ、気持ちの切り替えがしやすく、活動の中で「たのしかった」「少しでもできた」という満足感と自信が持てる様なプログラムを取り入れる。
2	必要に応じた個別療育プログラム	・日々のプログラムの中でチャレンジタイム（個別に応じた課題を行う時間）を作り、ひとりひとりが今日のチャレンジタイムは何をするのかが分かり、課題が出来たら花丸をつけ、「チャレンジタイムで〇〇ができた」と達成感を持てるようになっている。	・現在も取組中ではあるが、身体の動かし方の支援が必要な方には、運動療育の個別支援を行ない、保護者の方にも助言する時間も作っている。 ・就学に向け、年長児対象のグループ療育をご希望の方は実施中。夏季は認知も入れ、個別療育を企画した。次年度も二ードを踏まえ行っていく。
3	イベントの充実	・今年度は児童発達支援事業所のみでのイベントを2か月に1回、事業所全体でのイベントも含めると毎月1回程度のイベントを行い、普段交流のないことも同士、保護者同士の交流も見られる。	・職員の勤務体制も見ながら、イベントだけではなく、療育参観日のような日頃の療育を親子で楽しめるプログラムをおこなっていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	関係機関・地域連携	・保育所、認定こども園、幼稚園の交流は園の活動が終了した後に送迎車で園でお迎えに行き、その後事業所で活動する流れとなっているので、平日の活動内の交流時間の確保は困難である。しかし、土日は地域の催し物の参加を療育内で出かける機会もあった。	・未就園、2、3歳のお子様は午前中の療育時間なので、近隣の保育園等で園庭解放に行く、地域の交流センターの遊び場へ行き同年代のお子様と関わる機会を持つ。 ・区でおこなっているイベントがあれば参加できるよう情報収集し、地域との関わりが持てるよう行動していく。
2	保護者支援・交流	・お子様に関する悩みや相談を気軽におこなえるよう、HUGの連絡機能の活用もしているが、面談日時設定が足りないと思う。 ・懇談会を今年度設定したが、年間のスケジュールとして入れなかった為、保護者の方も予定が組めず、参加できなかった可能性もある。	・ご両親共働きの中、調整しながら見学、相談日を設定して頂くので、保護者交流の懇談会、イベントなどは年間のスケジュール提示をする。 ・見学相談に関してはいつでも見学可能な事を再度保護者の方に周知し、いつでも気軽に見学相談しやすい雰囲気を作る。
3	非常時等対応の周知	・事故防止、緊急時対応、防犯、感染症対応などのマニュアル策定としっかりジャンルを分けていない状態であった。（令和6年度改訂の為細分化、見直しもあったため）契約時に保護者に文面までの紹介は十分な時間が取れない。	・保護者が事業所へ来所された際、閲覧しやすい場所に避難経路や感染症対策等掲示し、イベントや懇談会など保護者の方が集まるイベント等で説明する機会を設ける。 ・避難訓練の年間予定の提示や実施の様子はインスタ等で伝える。

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	こぼんはうすさくら新潟中央教室（放課後等デイサービス）		
○保護者評価実施期間	2024年 10月 17日		2024年 10月 23日
○保護者評価有効回答数	(対象者数) 28名	(回答者数)	24名
○従業者評価実施期間	2024年 10月 7日		2024年 10月 17日
○従業者評価有効回答数	(対象者数) 5名	(回答者数)	5名
○事業者向け自己評価表作成日	2024年 11月 27日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	社会体験イベントや、保護者の方が事業所やお子様の様子を見ることができるイベントの設定	・季節を感じられる行事や、地域社会との関わりを持つことができるイベント、親子で楽しめるイベント等を計画し、参加者を募っている。	・保護者の方にイベントに関して、要望の聞き取り（アンケート）を行う。 ・子ども達が地域社会の中で経験を積み重ねることができるよう、発達段階に合わせたねらいを設定し、自立に繋げていく。
2	理学療法士による、個別レッスンの実施	・面談時や、日頃の連絡帳等のやり取りの中でニーズを聞き取り、保護者の方への提案や日程調整を行っている。	・積み重ねからステップアップを図れるよう、複数回実施していく。
3	送迎サービスの実施	・方面ごとに送迎車を振り分け、お子様の乗車時間に考慮している。 ・送迎マニュアルを作成し、安全に留意している。	・現状で送迎可能人数が定員に達しているため、今後送迎サービスを希望される方が増えるようであれば、保護者の方にもご協力いただく等、お子様にかかる負担に考慮する。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	懇談会やペアトレなど、保護者の方を対象としたイベント	・お子様だけの参加や、親子でご参加いただけるイベントの実施がメインとなっていた。	・アンケートを実施し、ペアトレの内容等のニーズを聞き取る。 ・定期的に懇談会やペアトレの機会を設け、保護者の方の仕事の都合等を考慮し、定期的に実施していく。
2	地域の子供達との交流	・平日は来所時間にばらつきがあり、他施設との交流の時間を捻出することが難しかった。 ・安全面、感染症等を考慮すると場所やタイミングを図ることが難しかった。	・創造センターや創作活動館での交流など、可能な範囲で交流の機会を設けていく。
3	災害時や緊急時マニュアルについての周知	・保護者の方が確認しやすい状態でマニュアルを設置できていなかった。 ・ブログや活動予定表だけでは、避難訓練について確認方法が少なかった。	・施設内の応接室など、保護者の方が目にしやすい場所に設置する。 ・HUGの活動記録や、施設内に実施の様子を掲示する形で、周知に繋げる。